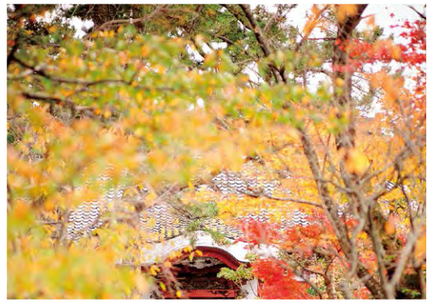
第10回　庄内みどころ 再発見

にこにこ余目町あるき

Supported by 庄内広域行政組合



庄内地方の中央に位置する旧・余目町。酒蔵やしょうゆ蔵が並ぶ表町を中心に、小さなタウントリップを楽しみました。

今回のガイド

佐藤（さとう） 元（はじめ）さん

表町にある酒造会社「やまと桜」の社長。自宅も余目で、幼少の頃より八幡神社界隈を走り回って育ったという。

勝利と安産の神、余目八幡神社

「余目」と書いて「あまるめ」。よそから来た人間にとっては読むのが難しい地名のひとつだ。古代日本では律令制で50戸ごとに「里」を作り、それに満たない家をまとめ「余戸（あまるべ）」として記録した。それが訛って「あまるめ」になったといわれている。この辺りに古くから集落があったことがうかがえる。

今回の町歩きは余目八幡神社からスタート。この神社の創建は奈良時代の養老3（719）年。大分県の宇佐八幡宮の分霊を勧請したのが始まりで、以来、余目の総鎮守として地域の信仰を集めてきた。室町時代に一度、町内の館地区へと遷（うつ）ったが、火災をきっかけに正保2（1645）年、今の場所へと還ってきた。文化11（1814）年に建てられた現在の社殿は羽黒山の三神合祭殿と同じ様式で、銅板葺の屋根もかつては三神合祭殿と同じ茅葺きだったという。とても大きくて「勇壮」という言葉が似合う。神職の稲垣さんの案内で、特別に社殿の中へ。明治14年に明治天皇が行幸（ぎょうこう）し、余目で稲刈りをご覧になった様子を描いた「稲刈天覧図（いねかりてんらんず）」や、立派な龍の天井絵など、貴重な文化財が多数収まっている。余目の歴史や文化について丁寧に教えてくださる姿に、豊富な知識と地域への愛を感じた。

商家の並ぶ「表町」は田んぼのオアシス

神社を出発して1分ほどで、明治23年創業の酒造「やまと桜」に到着した。佐藤さんの案内で大正時代に7年かけて建てられた母屋をのぞく。美しい日本家屋で、すべての柱や梁に木が丸ごと1本使われている。縁側はケヤキの一枚板で、とても質がいい。「ここは宴会場として使っています。東京の飲食店の方に縁側の板をカウンターに使いたいと言われたこともありましたね」。厚みがあって黒光りする立派な縁側。佐藤さんの思い出話に思わず納得してしまった。ここで飲むお酒はさぞ美味しいことだろう。

大正時代に7年かけて建てられた「やまと桜」母屋。よく見ると2部屋分の梁がひと続きになっている。

明治14年の明治天皇行幸の様子を描いた「稲刈天覧図」。明治史の資料として全国的にも貴重な大型の絵馬。

役場跡のお稲荷様。左側の杭が濠のあった場所。

屋上へ上がると、高い建物が少ないため町中が見渡せた。佐藤さんは隣の空き地を指さして「ここは役場の跡地なんですが、お稲荷さんが見えるでしょう。昔はあの脇まで酒田から堰が来ていて、そこから荷物を運んだんです」。「やまと桜」の創業前、佐藤さんの先祖は酒田から届いた海産物を売っていたという。今では姿を消してしまったその堰が、かつては重要なライフラインだったようだ。

歩いて10分ほどの乗慶寺への道すがら、佐藤さんが子どもの頃のことを話してくれた。八幡神社の茅葺き屋根に向かってボール投げをして遊んだこと、境内の銀杏拾いに夢中になり幼稚園に遅刻して怒られたこと、乗慶寺の近くに甘い実のなる柿の木があって、こっそり頂戴していたこと…。田んぼだらけだった当時の余目と、あぜ道を元気に駆け回るわんぱく少年の姿がありありと浮かび上がってきた。

次に訪れた乗慶寺は室町から戦国時代にかけ余目地域を治めた安保（あぼ）氏の供養塔があるお寺。鐘楼に上がると、建物の陰から黄金色の田んぼが見えた。佐藤少年はここで稲穂の海を見たのだろう。どれほど美しかったことか。

190年以上続く、地元で愛されるしょうゆ店

表町の「ハナブサ醤油」へ。連休前の多忙なささなか、女将さんが温かく迎え入れてくれた。立ちこめるしょうゆのいい香りに、顔がほころぶ。蔵を改装した休憩室や枯山水の中庭を眺める茶室など、見どころ満載だ。「中庭にお稲荷様があるでしょう。野ざらしだったのがかわいそうで、ある時、屋根を付けたんです。そしたら、その年に『しょうゆの実』が話題になったんです」。お稲荷様のおかげだと語る女将さんのまなざしが優しくて、今でも心に残っている。

余目を訪ねた日を思い返すと、出会った人々の顔が浮かんでくる。地域史の研究に熱心な神職さんや、ハナブサ醤油の優しい女将さん、やまと桜の元わんぱく少年…。もう一度会いたくて、また行こうかなと思うのだ。

編集・文＝松本 典子　写真＝間 真由美
協力・写真提供＝庄内町情報発信課

ハナブサ醤油の店内には約100年前の余目の写真が飾られている。

耳より余目かわら版

気になるスポットや面白い取り組みをご紹介！

新産業創造館 クラッセ

JR余目駅前の米倉庫を再活用した観光拠点。レストラン「やくけっちゃーの」や、カフェ「余目製パン」、地場産品の販売所・なんでもバザール「あっでば」などが入り、飲食・買い物が楽しめる。
所 東田川郡庄内町余目字沢田108-1
問 ☎0234-43-6486（庄内町商工観光課）

ギャラリー温泉 町湯

源泉掛流しの天然温泉とギャラリーが融合した、新しいスタイルの温泉施設。露天風呂や県内初導入の熱波（ロウリュ）サウナ、食堂もある。優しい泉質のお湯なので家族で安心して入れる。
開 6:00〜22:00　休 第1水曜日
所 東田川郡庄内町余目字土堤下35-2
問 ☎0234-43-2222

お名前はサクラちゃん

絶対に開かないタンス

町あるきの大先輩

たべぶらパスポート＆一店逸品

庄内町の飲食店を集めた冊子「たべぶらパスポート2015」。掲載店で食事をしてスタンプを集めると、素敵な賞品と交換できる！ 有効期限は平成28年2月末まで。
「一店逸品」は庄内町商工会が発行するお買い物ガイドブック。庄内町のお店にある「逸品」を買ってスタンプを集めると、商品券がもらえる！

内藤秀因水彩画記念館

日本水彩画会理事長も務めた庄内町出身の水彩画の巨匠、故内藤秀因画伯の水彩画約2,000点を収蔵・展示。作品は季節によって展示替えする。
開 9:00〜19:00（4月〜10月）／9:00〜18:00（11月〜3月）／土日は17:00閉館
休 月曜日・祝祭日・国民の休日（土・日を除く）／年末・年始（12月29日〜1月3日）／展示替え期間／図書館蔵書点検
所 東田川郡庄内町余目字三人谷地58-1
問 ☎0234-43-3039

明治天皇御駐輦碑（ごちゅうれん）

明治天皇がご巡幸の際に佐藤善治宅でご小休されたことを記念して建てられた。表町に今でも残る。

余目イベントガイド

東北の奇祭！「やや祭り」

安産祈願と無病息災・身体堅固を祈願する、庄内の小正月の風物詩。裸に腰蓑をつけた少年たちが冷水を浴び、集落内を回って神社へお参りする。

日時 1月17日（日）13:00〜 祭典開始
場所 千河原八幡神社
問 ☎0234-42-2922（庄内町観光協会）